

大量の土師器・須恵器が出土しました！^{くまのいせきだい}（熊野遺跡第187次調査）^{ちょうさ}

令和4年5月19日（木）～6月22日（木）までの間、熊野遺跡第187次発掘調査を行いました。



A区全景



B区全景

熊野遺跡は、深谷市岡地内に所在する遺跡です。過去の調査では、多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、石組みの井戸跡などが確認されています。また、役人が使用していたとみられる円面硯や水滴なども出土していることから、当遺跡は榛沢郡家と関係のある遺跡であったと考えられています。

今回は、A区とB区の2か所を調査しました。その結果、竪穴建物跡が7軒、溝跡が2条、土坑が16基、ピットが21基検出されました。

第2、第6号竪穴建物跡にはカマドの存在も確認され、その付近からは大量の土師器・須恵器の坏や甕などが出土しました。他の建物跡から出土した遺物の特徴も踏まえると、今回の調査で確認された竪穴建物跡は8世紀～10世紀に属するものと考えられます。



第2号建物跡 遺物出土状況



第6号竪穴建物跡 遺物出土状況